

I

■出題のねらい

日常的な会話の内容を正確に理解する問題です。2者のやりとりの流れを見失わないようにしながら、細かい情報を読み取ります。テーマは「レストランでの会話」です。2人が共通の友人について話していますが、注意深く読み、どのような人物なのか正確に把握しましょう。

■採点講評

普段の会話には、様々な話題が入れかわり立ちかわり出てきます。この問題ではJohnが実践していた一風変わった食餌法とその挫折について、しっかりと理解できるかどうかポイントでした。□4と□5の正答率が思わしくありませんでしたから、全体把握に苦戦した人も少なくなかったようです。特に英問英答の問題では、同じ内容も違った表現に言い換えられますので注意が必要です。

II

■出題のねらい

音楽大学の練習室と録音スタジオの貸し出しに関する案内ポスターを読み、ポイントとなる情報を的確に読み取る力を問う問題です。練習室と録音スタジオそれぞれの特徴や貸し出しの条件について、情報の多さに惑わされず、必要な部分を素早く見つけ出しましょう。

■採点講評

全体としてはよくできていましたが、□10の正答率が低かったです。ここでは“condition”という単語が重要なポイントです。「コンディション」というカタカナ語の意味とは違い、「条件」という意味で用いられています。カタカナ語として定着している単語も、英語としては多様な意味を持っているケースがよくあります。カタカナ語にはくれぐれも注意しましょう。

III

■出題のねらい

地球温暖化に関わる英文です。単に地球の気温が上昇するというのではなく、アメリカやブラジル、地中海沿岸地域など、国・地域によっては上昇の度合いがさらに大きくなるという最新の予測を紹介しています。英語の基礎的読解だけでなく、理系に必須の数値を伴う表現やグラフ情報の的確な把握など、複合的な理解力が問われます。

■採点講評

全体的に正答率は悪くありませんでしたが、15の正答率がよくありませんでした。選択肢はどれもありそうな内容ばかりですので、本文をしっかりと読んで、深く理解できているかどうかポイントとなりました。正答は③でしたが、誤って②を選んだ人が多かったです。

IV

■出題のねらい

携帯電話の普及に伴い廃止されていた公衆電話を、今後の震災に備えて復活させようという、ある市の取り組みに関する内容です。数字を含む情報の詳細を正確に読み取れるかが問われる問題です。情報の流れに沿って的確な語句を選べるか、基本的な語彙に習熟しているか、語法を理解しているかを問う基本的な問題となっています。

■採点講評

身近なテーマだったせいか、選択肢が日本語の文章で示されている問題の正答率は比較的高かったです。ところが選択肢が英文の22は、正答率がかなり低かったです。このタイプの問題では、選択肢に使用されている単語を手掛かりに、本文の該当箇所をじっくり読むことが大切です。同じことを別の言い回しで表現することもありますから、単語・熟語の力も必要となります。単語を覚えるときに同意語も一緒に覚えるようにすると効果的です。

V

■出題のねらい

エスカレーターの片側に乗ることや、走ったり歩いたりすること、前の人との間隔を空けないでエスカレーターに乗ることは事故に繋がる可能性があるということで、鉄道会社がマナー・キャンペーンを行っているという話題について述べられています。論の流れをつかみながら読めているかどうかを問います。

■採点講評

全体的にまずまずの出来でしたが、27の正答率がよくありませんでした。正答は⑤ですが、誤って②を選んだ人が多かったようです。単語は決して難しいものではありませんから、基本的な構文をもう一度確認しておきましょう。